

金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）
—御伊勢山・権現山急傾斜地防災工事に伴う本発掘調査—

2016

横浜市教育委員会

例 言

- 1 本書は、横浜市教育委員会が実施した御伊勢山・権現山急傾斜地防災工事に伴う金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）本発掘調査報告書である。
- 2 金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）（横浜市文化財地図／金沢区No.52遺跡、神奈川県遺跡台帳／金沢区No.40遺跡）は、横浜市金沢区六浦二丁目3821番1（北緯35度19分42秒、東経139度37分0秒）に所在する。
- 3 本書に掲載してある挿図の指示は次のとおりである。
 - ◎縮尺は適宜図中に示した。
 - ◎方位は全て真北を示し、水系レベルは標高を示す。
 - ◎特徴のある部分についてはトーンで表した。
- 4 調査組織
 - 調査主体 横浜市教育委員会（生涯学習文化財課）
 - 調査担当 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 理事長 五味文彦
 - 埋蔵文化財センター 学芸担当係長 橋本昌幸
 - 調査研究員 浪形早季子
 - 支援業務 有限会社横浜技術コンサルタント
- 5 遺構測量図は株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 6 整理報告作業は埋蔵文化財センターにおいて行なった。
- 7 今回の調査で出土した遺物及び記録等については、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターに保管されている。
- 8 発掘調査及び出土品の整理作業に際しては、次の諸氏・諸機関にご協力を賜った。ここにご芳名を記し深謝の意を表する。
上行寺

目 次

例 言

目 次

1 遺跡の位置と環境	1
2 調査の所見	2
（1）調査経過	2
（2）遺構・遺物	3
3 まとめ	5
4 写 真	7
5 抄 録	9

1 遺跡の位置と環境

今回調査を実施した金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）は、京浜急行線金沢八景駅の南西約0.4kmに所在する。横浜市域の南部に位置するこの付近は、三浦半島から円海山に至る丘陵性の地形をなし、地質的には上総層群野島層に相当する。このあたりの地形は、沿岸部の沖積地から急激に立ち上がる海岸丘陵性の地形を呈している。この中で侍従川に開析された低地が東西に走り、さらにここから樹枝状の小支谷が複雑に延びている。

金沢区No.52遺跡は、御伊勢山・権現山を中心とした独立丘陵のほぼ全域、十数haにわたる広範囲が周知されており、この丘陵麓には多数のやぐらが存在する。このため、遺跡名のみでは調査地点の特定が困難となることから、神奈川県教育委員会との協議により所在地を地点名とすることとなっている。

本遺跡を代表するものとして、上行寺東やぐら群が挙げられる。昭和59・61年にやぐら44基・建物址10棟・土坑墓18基ほか調査され（2002 上行寺東やぐら群遺跡発掘調査団）、横浜市教育委員会によりその一部が型取り復元され、野外展示として残されている。平成13年度には瀬戸21番地やぐら群でやぐら6基・井戸址1基、平成17～20年度には瀬戸14番地やぐら群でやぐら9基・地下式坑1基・副室1基ほか、平成18・19・20年度には六浦二丁目5番地やぐら群でやぐら12基・地下式坑4基・横井戸1基・石切遺構3か所ほか、平成20年度には六浦二丁目3番地でやぐら1基等が、それぞれかながわ考古学財団により調査されている（2001・2007a・2007b・2008a・2008b・2009a・2009b 財団法人かながわ考古学財団）。また平成19年度には鎌倉遺跡調査会により六浦二丁目3809番1他やぐら群が調査され、やぐら4基・石切遺構1か所が検出された（2007 鎌倉遺跡調査会）。



◎ 金沢区No.52遺跡(六浦二丁目所在やぐら) 1 史跡称名寺境内 2 瀬戸神社旧境内地内遺跡 3 瀬戸町やぐら群
4 金沢区No.52(上行寺裏)遺跡 5 上行寺東やぐら群 6 泥牛庵脇やぐら群 7 六浦大道やぐら群

図1 遺跡の位置と周囲の地形 (1:25,000)

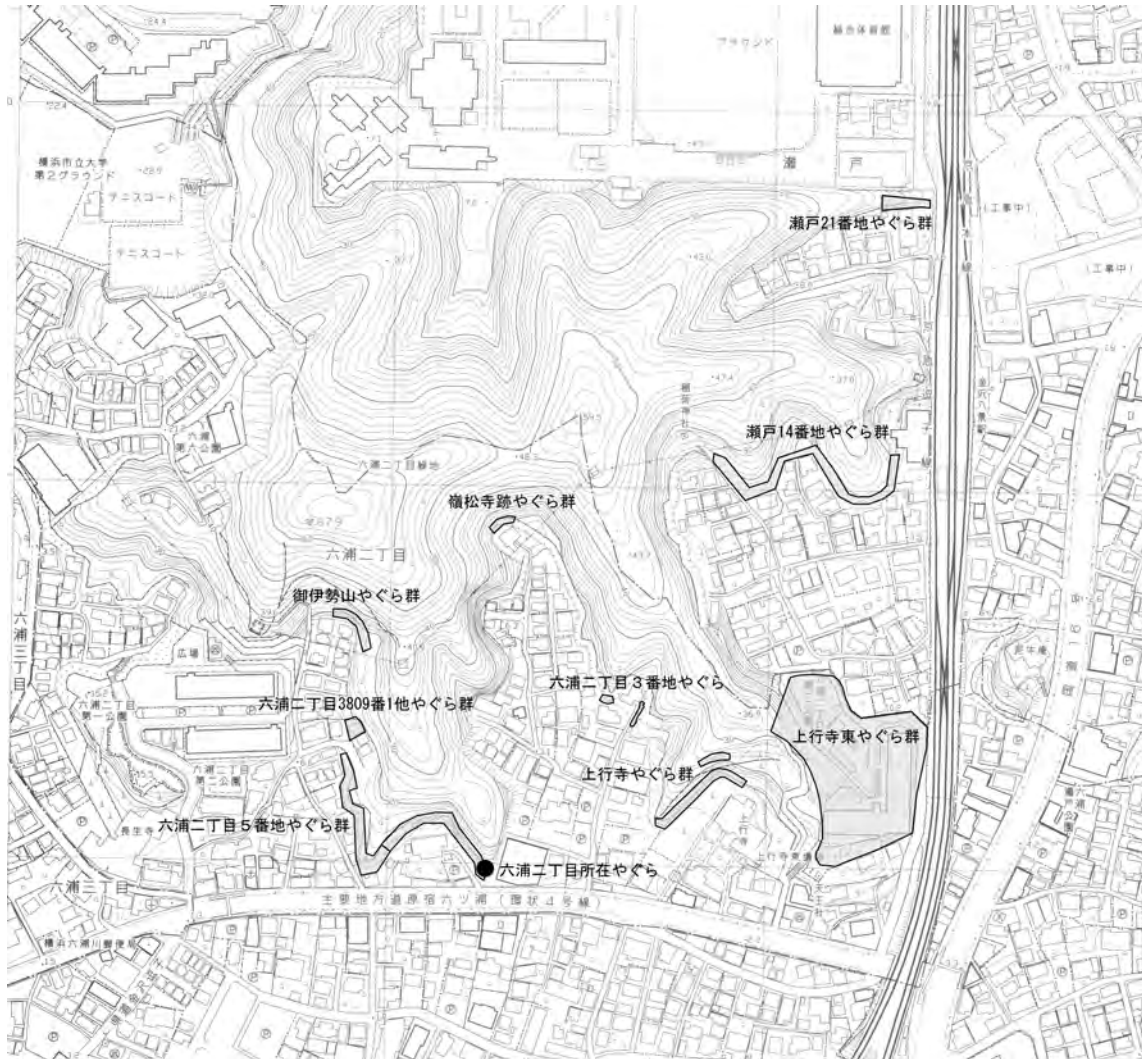


図2 周囲の遺跡 (1:5,000)

このほか、平成9・10年度には横浜市教育委員会により丘陵地部分で試掘確認調査が実施され、丘陵全域にわたり近世以降の石切遺構が確認されたほか、井戸址・溝・堀切等多彩な遺構が検出された(2000横浜市教育委員会)。

本やぐらは、御伊勢山から南に延びる尾根の端部に位置し、主要地方道原宿六浦線(環状4号線)に面している。岩沢・長沢家やぐら群と称される一群のひとつで、尾根の東西に開口部をもつ2基のやぐらが落盤により内部で連結しており、さながら隧道の観を呈している。

2 調査の所見

(1) 調査経過

今回の調査は、やぐら天井および側壁の崩落が著しく内部での作業が極めて危険であり、連結した西側の開口部には防護用の金属製ネットが設置されていることから、東側やぐら開口部～奥壁までの計測を主体とした。なお、奥壁西側の底面には木製扉により封じられたコンクリート製の枠が埋め込まれ、中には室状の空間が広がっている。

まず仮囲障・廃棄物の撤去作業を3月8日より行なった。やぐら内部には空き缶・空き袋などのゴミのほか、枯れ枝、窓枠、木材、ガラス、日用品等多様な廃棄物が散乱していた。廃棄物の撤去にあたっては、調査実施区域が崖直近まで民有地となっており、撤去物等の搬出が困難であるため、調査の対象としない部分に仮置きすることとした。堆積土を掘削し基盤層の底面を検出したのち、3月17日～18日に測量作業を実施し調査を終了した。

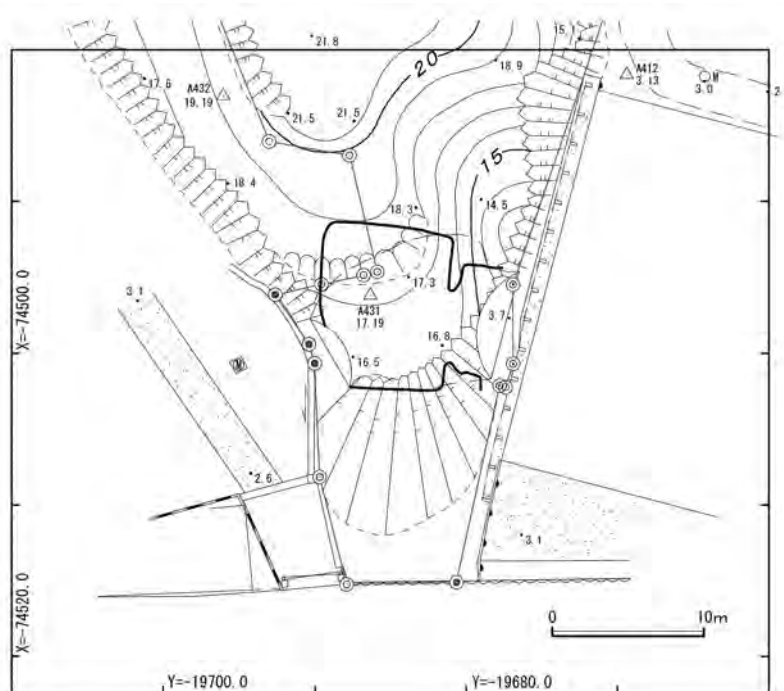


図3 やぐら位置図 (1 : 500)

(2) 遺構・遺物

・やぐら (図4～9)

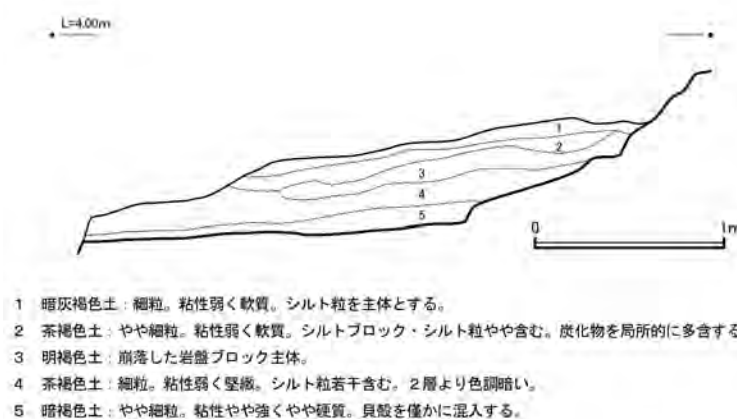
調査着手時点で本やぐらは既に開口しており、その底面は本址前面に所在する店舗駐車場の表面より1.0m程度の段差を有していた。遺存状況は良好でなく、開口部上面および南壁は大きく崩落し旧状を留めておらず、奥壁にも幅約5.1m×高さ3.5mの不整形な穴が開いている。

やぐら内には、天井および壁面が崩落した基盤層の塊や、大量の廃棄物で覆われている状況であった。表土は基盤層が風化したと考えられる粗粒の砂質土で、以下の堆積土もガラス片やゴミの混入した層が底面付近まで続いていた。

表層の廃棄物・表土を除去したところ、やぐら北壁際で手水鉢と考えられる整形した四角い石のほか30～50cm大の石がまとまって見つかった。

玄室の平面形は横長の長方形を呈しており、主軸方向はN-86°-Wとほぼ東西に向く。前壁は存在せず、奥壁付近での規模は幅6.7m、高さ4.0m、現存する奥行は3.0mである。底面の標高は2.8mを測る。

遺構底面は、平坦で奥壁側に段を有し、中央付近では弱いスロープと段をもって不整形な穴へと続く。段には工具痕が明瞭に残る。また奥壁



- 1 暗灰褐色土：細粒。粘性弱く軟質。シルト粒を主体とする。
- 2 茶褐色土：やや細粒。粘性弱く軟質。シルトブロック・シルト粒やや含む。炭化物を局所的に多含む。
- 3 明褐色土：崩落した岩盤ブロック主体。
- 4 茶褐色土：細粒。粘性弱く堅緻。シルト粒若干含む。2層より色調暗い。
- 5 暗褐色土：やや細粒。粘性やや強くやや硬質。貝殻を僅かに混入する。

図4 土層断面図 (1 : 40)

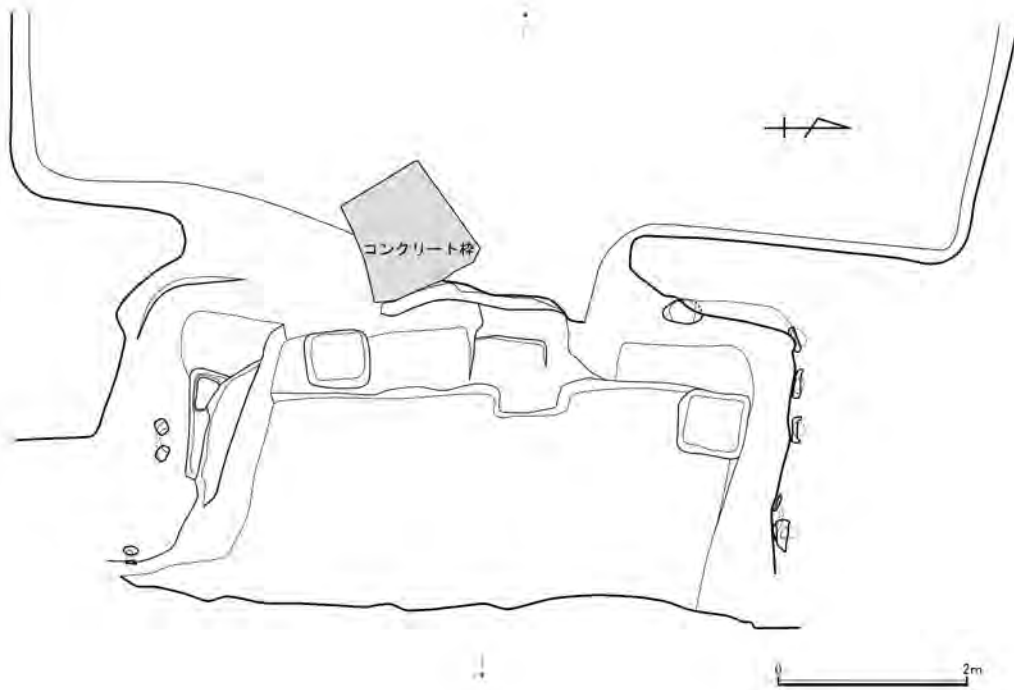


図5 やぐら平面図 (1 : 80)

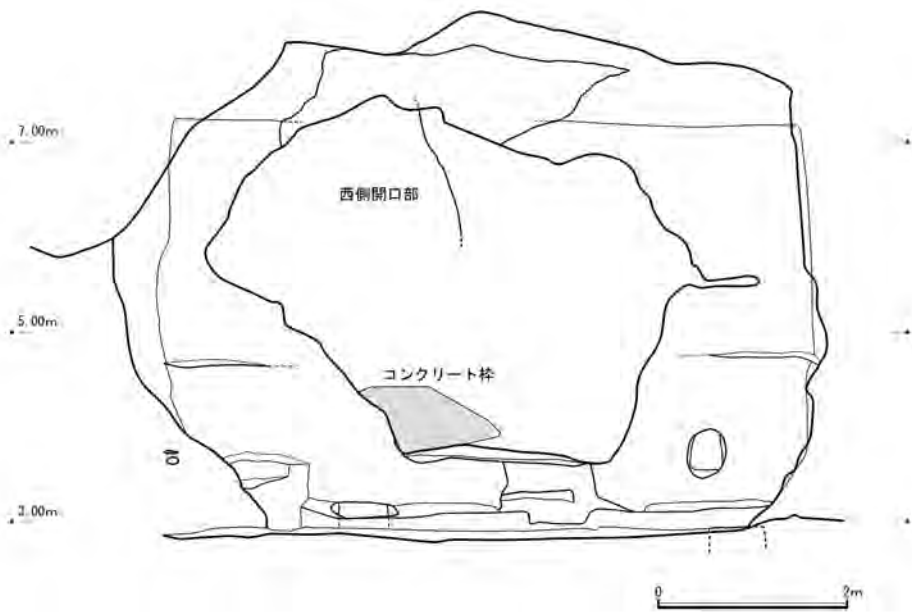


図6 やぐら正面見通し図 (1 : 80)

際には南北2か所に70×60cmの長方形を呈する竪穴が穿たれている。南側のもは深さ60cm程で底面に達するが、西壁側が開口しており室状の空間へと続く。北側の穴はほぼ同レベルで水が湧き、それ以上掘り下がることができなかつたが、北壁側が開口していた。

やぐら北壁の立ち上がりは概ね直線的であるが、南壁では雛壇状に立ち上がり、石の切り出し用と考えられる細い溝が残る。

奥壁隅では標高4.7～4.8mの位置に僅かなテラス状の平場が確認され、天井部からの稜線もこの部分まで明確に認められるが、以下では極めて不明瞭となる。

南北壁には開口部に近い位置で、貫通した2つの穴が横位に穿たれており、また開口部南側では同様の穴2か所が縦位に穿たれている。その標高は3.8～4.0mとほぼ同一の高さで、駒繋ぎ穴と考えられる。

表層中から後世に投棄されたと考えられる、近現代の陶製湯たんぽや陶磁器片が見つかるが、本やぐらの所産時期を示す出土遺物は皆無である。

3 まとめ

本やぐらは著しい崩落と後世の改変により、造営当時の状況を留めていない。奥壁はトンネルのように西側のやぐらと繋がり、側壁・天井は大きく崩落している。底面は後世に岩盤を切り出したと思われる工具痕が明瞭に認められる。奥壁両隅でみられた弱いテラス状の部分は、天井部からの稜線が残り、これが本来の床面であった可能性が高い。

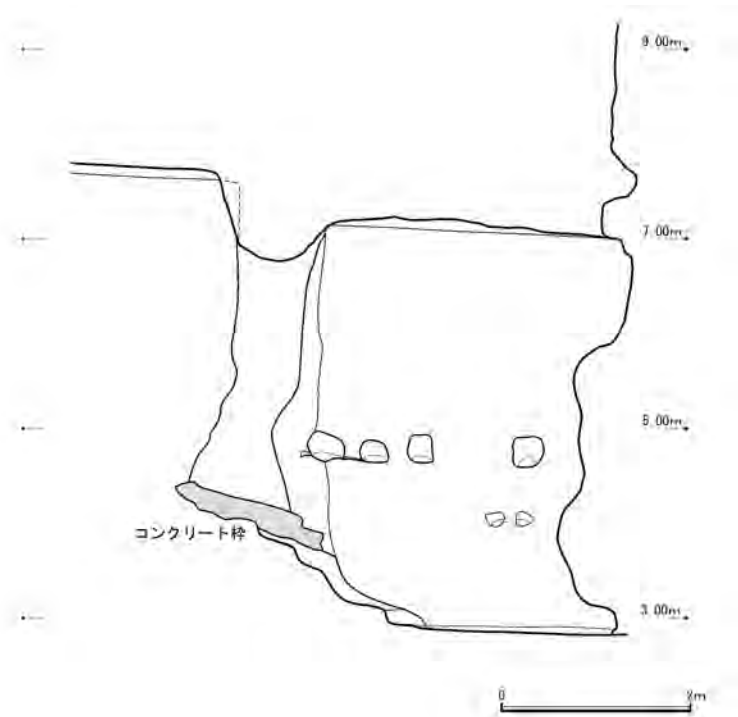


図7 やぐら右側面図 (1:80)

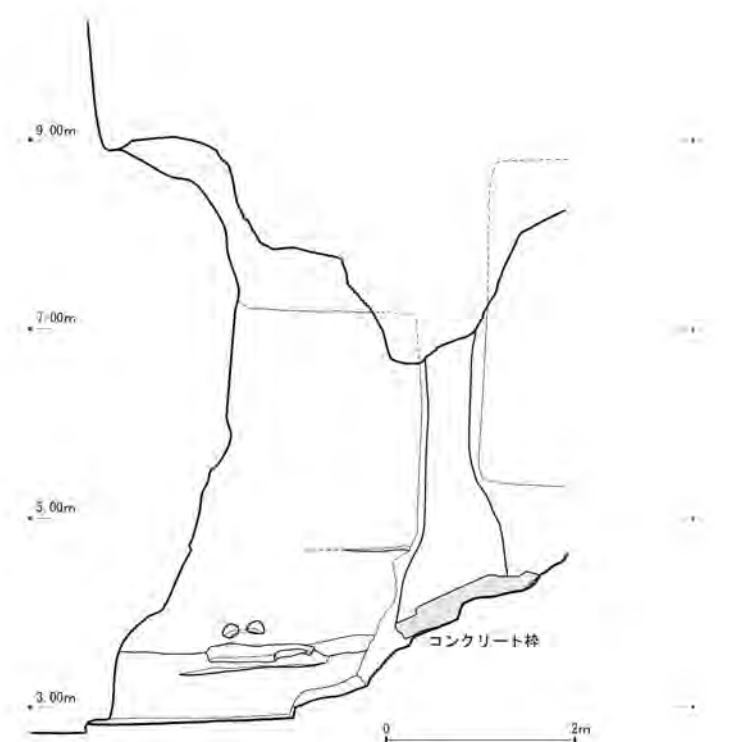


図8 やぐら左側面図 (1:80)

その場合、奥壁での規模は幅6.8m、高さ2.5m程となり、正面からみた形状は極めて横長で規模の大きいものである。上行寺裏遺跡のなかでは、六浦二丁目5番地やぐら群の2号やぐら（玄室幅5.53m、奥行き2.7m、高さ2.0m）・7号やぐら（玄室幅4.8m※、奥行き5.26m、高さ2.34m）などに並ぶ規模である。

開口部付近で3か所みられた駒繋ぎの穴は、瀬戸14番地やぐら群の7号やぐらでも検出されている。近年に馬小屋として利用されたと考えられる。

※報告書掲載図の計測値。報文では2.8mとある。

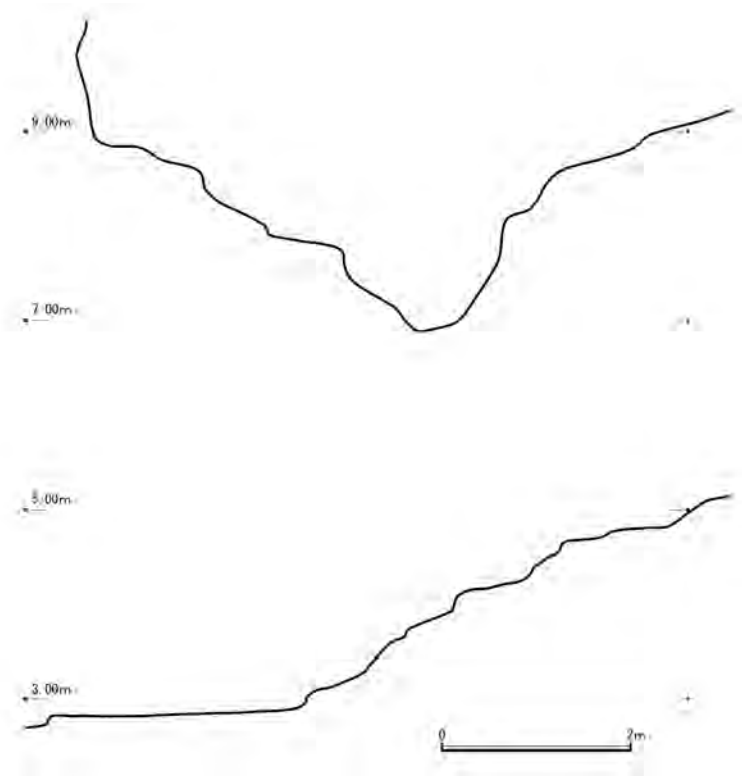


図9 やぐら断面図（1：80）

【参考文献】

鎌倉遺跡調査会 2007 『上行寺裏（六浦二丁目3809番1）やぐら群』
 財団法人かながわ考古学財団 2001 『上行寺裏遺跡（瀬戸21番地やぐら群）』 かながわ考古学財団調査報告124
 財団法人かながわ考古学財団 2007 a 『上行寺裏遺跡（瀬戸14番地やぐら群）』 かながわ考古学財団調査報告211
 財団法人かながわ考古学財団 2007 b 『上行寺裏遺跡（瀬戸14番地やぐら群）II』 かながわ考古学財団調査報告217
 財団法人かながわ考古学財団 2008 a 『上行寺裏遺跡（六浦二丁目5番地やぐら群）』 かながわ考古学財団調査報告225
 財団法人かながわ考古学財団 2008 b 『上行寺裏遺跡（六浦二丁目3番地やぐら群）』 かながわ考古学財団調査報告233
 財団法人かながわ考古学財団 2009 a 『上行寺裏遺跡（六浦二丁目5番地やぐら群）II』 かながわ考古学財団調査報告234
 財団法人かながわ考古学財団 2009 b 『上行寺裏遺跡（瀬戸14番地やぐら群）III』 かながわ考古学財団調査報告241
 上行寺東やぐら群遺跡発掘調査団 2002 『上行寺東やぐら群遺跡』
 横浜市教育委員会 2000 『金沢区No.52（上行寺裏）遺跡－範囲確認調査報告書』

4 写真



写真1 遺跡遠景（北東より）



写真2 調査前全景



写真3 土層断面



写真4 調査風景



写真5 調査風景



写真6 床面



写真7 右側壁面



写真8 工具痕



写真9 左側壁面



写真10 調査終了



写真11 調査終了



写真12 遺跡近景

5 抄 録

ふりがな	かなざわくなんばーごじゅうにいせき (むつうらにちょうめしよざいやぐら)							
書 名	金沢区 No.52 遺跡 (六浦二丁目所在やぐら)							
副書名	一御伊勢山・権現山急傾斜地防災工事に伴う本発掘調査一							
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	浪形早季子・橋本昌幸							
編集機関	公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター							
所在地	神奈川県横浜市栄区野七里 2-3-1							
発行年月日	平成 28 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かなざわくなんばー ごじゅうにいせき (むつうらにちょう めしよざいやぐら) 金沢区 No.52 遺跡 (六浦二 丁目所在やぐ ら)	かながわけんよこは ましかなざわくむつ うらにちょうめ 神奈川県横浜市 金沢区六浦二丁 目 3821-1	141089	金沢区 No. 40 (県) 金沢区 No. 52 (市)	35 度 19 分 42 秒	139 度 37 分 00 秒	2016. 3. 8～ 2016. 3. 18	25 m ²	御伊勢山・権現山 急傾斜地防災工事
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
金沢区 No.52 遺跡 (六浦二 丁目所在やぐ ら)	やぐら	鎌倉～室町時代		やぐら		なし		

本書の印刷仕様について

紙質 コート、四六判110kg

印刷 電算写植によるオフセット印刷

刷色 墨一色

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合、この報告書の一部を複製して利用することができます。

なお、利用にあたっては出典を明記して下さい。

この報告書にかかる遺物並びに記録図面類（写真を含む）は公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センターで保管しています。原品を利用するには、別途利用申請が必要となります。

金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）

編集／公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1 TEL 045(890)1155

発行／横浜市教育委員会

〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045(671)3284

発行日／平成28年3月31日

印刷／(株)ナデック